偽キリスト David Gamut

肴　倉　　宏

David Gamut as an antichrist

Hiroshi Sakanakura

抄　　録

自然とそれを覆う闇は、*The Last of the Mohicans* を構成する重要な要素であるだけでなく、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられている。自然と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。David Gamut は、Magua を悪の化身と認識するけれども、自分だけは倫理的に正しいと思いこんでいる。このような David は、ダビデやイエス・キリストのごとく振る舞うのである。Cooper は、イエス・キリストのように振る舞う David を悪と結び付けて描いている。David は、偽キリストなのである。彼が偽キリストになってしまった原因は、古い生命力を失ったキリスト教信仰に固執しているためなのである。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「モヒカン族の最後の者」、デービッド・ギャマット

（1995 年 9 月 1 日　受理）

Abstract

The contrast between nature and the darkness covering it constitutes both structural and thematic frames for *The Last of the Mohicans*. Nature symbolizes good while the darkness symbolizes evil. David Gamut understands Magua as an evil person, but he considers himself to be good in the fallen world. He acts like David in the Old Testament and Jesus Christ in the New Testament. Cooper depicts David who acts like Christ as an evil person. David is an antichrist. Why does David become an antichrist? The reason is that he holds an old and lifeless Christian faith.

Keywords：James Fenimore Cooper, *The Last of the Mohicans*, David Gamut

(Received September 1, 1995)

Donald Davie と Thomas Philbrick は、*The Last of the Mohicans*（1826）の David Gamut を芸術家として高く評価している。Donald Davie は、David Gamut を滑稽な男であるけれども、"a representative of the Art"[1] として俗物の Natty Bumppo と対照をなし、Natty Bumppo の限界を示す役割を果たしているという。Thomas Philbrick は、David を "the man of peace, the man of God, and most of all, the man of art"[2] と述べ、David を物語を支配する混沌の対極にある価値を表す人物と解釈している。Donald Davie も Thomas Philbrick も芸術家としての David が生活に潤いをもたらしたり、混沌の中に調和をもたらす重要な役割をしていると評価している。

しかし、David Gamut を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみるとどうなるであろうか。David を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみると、そこには象徴的な意味を与えられた新しい人間像が浮かび上がってくるように思えるのである。そして、*The Last of the Mohicans* の最初の3章は、David を捉え直す上で重要な意味をもってくるように思えるのである。

Cooper は、最初の3章で David Gamut に与えた意味を明らかにするために必要な準備をしている。まず重要なのは、物語の舞台を設定することである。雄大な自然が読者の眼前に展開する。Cooper は、第1章の冒頭で自然との闘いが敵対するもの同士の戦いに先立つと述べている。続いて、Cooper は、対決する英・仏両軍の大部隊が広大な森林に飲み込まれている様子を描いて "the forest. . . appeared to swallow up the living mass which had slowly entered its bosom."（15）という。[3] 敵・味方両軍を飲み込んでしまう自然の広大さが強調されているである。

Cooper は、自然の物理的な広大さを強調するだけでない。彼は、自然が象徴的な意味も与えられていることを示そうとする。Howard Mumford Jones は、Cooper のパノラマ的な自然描写が Hudson River School に属すると言われている画家たちの自然描写と共通していることを指摘した上で、両者が描こうとしたことは、"the grandeur of God working in the universe"[4] であると述べている。Cooper は、神が自然を通して自らを啓示するということを示そうとしたのだ。従って、Cooper の描く自然は、それを見る者の心の中に "the awe or humility"[5] をもたらすものなのだ。Cooper の描く舞台を構成する自然は、宗教的な意味を持つ信仰の対象とされるものなのである。

神の啓示としての Cooper の自然は、同時に作品の舞台を構成するもう一つの重要な要素である死と闇の覆うところでもある。それは、英・仏両軍が植民地支配の覇を競いあって死闘を繰り広げている "the bloody arena"（12）でもあるのだ。そして、死体が累々と続く森林地帯は、闇に包まれている。Cooper は、森林地帯を "an impervious boundary of forest"（11）や "the interminable forests"（13）と描き、森の中は光を通さず昼なお薄暗いという。Cooper の作品には、物語が夕方から始まって夜へと進むものが多い。*The Last of the Mohicans* でも冒頭の残照がすぐさま夜の闇にかき消されてしまうことで、森の中はより一層暗さを増す。この点について、Thomas Philbrick は、"almost always Cooper's protagonists are hemmed in by darkness, mist, or the cover."[6] と述べている。闇に包まれ死体の転がる森は、まるで墓場のような不気味な様子

をしているのである。

Cooper は、死臭を漂わす闇を一人のインディアンと結び付けて描いている。読者は、このインディアンの名前が Magua であると知らされるのだが、彼は物語が始まるとすぐに大自然の舞台に登場するのである。夕暮れに Edward 砦に "the unwelcome tidings" (17) をもって現れたこのインディアンは、これからすぐに訪れる不吉な闇の前触れなのである。Cooper は、この男と闇の結び付きを強調する。この男の表情は、闇のように暗い。そればかりか、Magua の表情の暗さは、見る者にただならぬ嫌悪感すら与えている。Cooper は、彼の表情を次のように描いている。

> The colours of the war-paint had blended in dark confusion about his fierce countenance, and rendered his swarthy lineaments still more savage and repulsive, than if art had attempted an efect. (18)

Cooper は、Magua の暗さが顔にぬった絵の具の効果だけによるものではないという。こうして、Cooper は、Magua の表情に浮かぶ暗さがこの男の本質に根ざしていることを暗示している。

Cooper は、物語の進行につれて Magua の本質を読者に明らかにする。そして、彼は舞台を包む闇の性質を明らかにしてゆくのである。Magua は、倫理的に堕落したインディアンとして描かれている。彼は、白人と接触し "the fire-water" (102) を飲むことを覚え、"a rascal" (102) になり下がったのだ。文明と接触し宗教的な意味を与えられている自然との関係を失ったことが、彼の堕落の原因なのである。やがて、Magua は、大虐殺を引き起こした首謀者として読者の前に現れる。第17章の William Henry 砦の虐殺の場面は、イギリス軍の将兵とともに婦人や子供までがインディアンに殺された歴史的に有名な事件である。Cooper は、この事件と Huron 族を結び付ける。Huron 族が大量殺戮を行ったのだと言う。そして、Cooper の Magua は、Huron 族を操って彼等にイギリス軍の将兵と婦人や子供を襲撃させ虐殺させたのである。森林地帯に転がる死体は、血に飢えた Magua の暗躍の結果なのである。Magua は、"the dusky savage the Prince of Darkness, brooding on his own fancied wrongs, and plotting evil" (284) なのである。Magua は、悪の化身なのだ。大自然という舞台は、倫理的腐敗を隠蔽し悪の跳梁を許す象徴的な意味を帯びた闇に覆われているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。宗教的な意味が与えられた自然は、背後におしやられその表面を倫理的腐敗を隠す闇が覆っている。Magua が君臨する舞台は、James Franklin Beard がいうように "his [man's] fallen state"[7] なのである。こうして、Cooper は、これから闇に覆われた舞台で起こる事柄にまつわる問題の中心が悪の認識に関するものであることを暗示するのである。

David Gamut が倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す闇に覆われた舞台に登場する。彼は、New England 地方出身の賛美歌教師なのである。彼は、キリスト教の布教・伝道のため Edward 砦から William Henry 砦にいこうとしているのである。Edward 砦で出発の機会を待っていると、そこに Magua が "the unwelcome tidings" (17) をもってくるのだ。David は、戦闘用の絵の具を顔に塗りトーマホークを腰に下げた Magua を初めて

みるのだ。彼は、獰猛なMaguaにキリストの福音を全く知らない人間の典型を見るのである。彼は、Maguaを倫理的な闇の中にいる男と見做すのである。

Davidは、異教徒であるMaguaにキリスト教を伝道し彼を改宗させようと努力する。彼は、Huron族の集落まで行き彼等の族長であるMaguaにキリスト教を教え彼の蒙を啓き部族を改宗させようとするのである。実際、彼は昼夜を分かたず賛美歌をうたいそして聖書の言葉を語るのだ。しかし、Maguaは、キリスト教を受け入れようとしないのだ。Davidはかたくなにキリスト教を拒むMaguaのことをNatty Bumppoに次のように話す。

> the leader of these savages is possessed of an evil spirit, that no power, short of Omnipotence, can tame. I have tried him, sleeping and waking, but neither sounds nor language seem to touch his soul. (223)

Davidは、キリスト教を受け入れようとしないMaguaを悪霊に取りつかれているという。そして、彼はMaguaに支配されているHuron族を倫理的な闇の中にいる無知蒙昧の輩と見ているのである。Davidは、Maguaを悪の化身と認識するのである。

DavidのMaguaに対する認識は、彼の世界認識を深めている。彼は、悪の化身Maguaに操られているHuron族が跋扈している状況を倫理的に不毛な状況と認識する。実際、Huron族が人の心を寒々とさせるような"a tumult of yells and cries" (66) をあげて襲撃してくるのを見ると、Davidは、"the infernal din" (66) の真っ只中で、"Whence comes this discord! Has hell broke loose, that man should utter sounds like these!" (66) と叫ぶのである。Davidには、Huron族の雄叫びが、まるで、"the demons of hell" (66) が地獄の扉を破り地上に現れそこを支配しているように思えるのである。彼は、Huron族が傍若無人に振る舞う状況を倫理的腐敗と堕落の支配する世界と見るのである。

倫理的に堕落した世界でのDavidの行動は、第17章のWilliam Henry砦の陥落直後の場面にみられる。William Henry砦の陥落直後に悪の化身Maguaに唆されたHuron族が砦から退却するイギリス軍の将兵や婦人そして子供を襲撃し略奪をほしいままにする。この場面は、歴史的に有名な出来事を読者に思い起こさせてくれるだけではない。それは、象徴的な意味も与えられている。Huron族の残虐極まりない行為が繰り広げられる場面は、倫理的に荒廃した人間の世界のありさまを象徴的に描いたものなのである。Davidは、Huron族が暴虐のかぎりを尽くしている様子を目の当たりにして、Coraに次のように話す。

> Lady. . . it is the jubilee of the devils, and this is not a meet place for christians to tarry in. Let us up and fly! (177)

Davidは、Huron族が虐殺を行っている状況を悪魔の饗宴にたとえている。そして彼は、その場がキリスト者にとってふさわしくないところなので逃げようとCoraに提案する。彼は、虐殺の現場から逃げることで自分の身の安全を優先すると同時にキリスト者としての倫理的潔癖さを守ろうとするのである。彼は、堕落した世界に生まれ落ちた人間であるにもかかわらず自分も堕落した人間の一人であることを自覚していない。彼は、堕落した世界の真っ只中にあって倫理的完全さ

を守ろうとするのである。彼は、Magua を悪の化身と認識するけれど、自分も Magua と同質の悪に蝕まれていることを自覚しないのである。

悪に蝕まれているという自覚を持たない David は、Cora の霊的な苦悩を理解することができないのである。Cora は、"The tresses of this lady were shining and black, like the plumage of the raven." (19) と描かれている。彼女の黒髪は、彼女が白人の父 Munro と黒人の血を引く母との間に生まれた混血の娘であることを示している。しかし、彼女の黒髪は、人種的特徴を表しているだけでない。それは、象徴的な意味も与えられている。彼女の黒髪は、Magua の暗さに象徴的に示された悪を生まれながらに持っていることを示しているのだ。Cora が自分について語る言葉に注目してみる。Cora は、妹の Alice と比べて次の様にいう。

> That I cannot see the sunny side of the picture of life, like this artless but ardent enthusiast. . .is the penalty of experience, and perhaps, the misfortune of my nature. (150)

Cora は、人生の暗さしか見えないのは生まれながらの不幸によるものだという。彼女は、人間性の拭い去り得ない一部として悪を生まれながらに持っていることを告白しているのである。彼女は、人間性を捉えて離さない悪ゆえに苦悩しているのである。ところが、David は、Magua を悪の化身と認識するけれど自分も悪に染まっているという自覚を持たない。この様な David は、Cora の苦悩を理解し共感することができないのである。彼は、独善的な男なのである。

悪に蝕まれているという自覚を持たない David の姿は、さらに強調されている。David は、暴虐のかぎりを尽くしている Huron 族を鎮めようとする。その時、彼は、旧約聖書のダビデのことを思い起こす。彼は、ダビデがサウル王にとりついた悪霊を追い出した例にちなんで Huron 族にとりついた悪霊を追い払おうとする。彼は、次の様にいう。

> If the Jewish boy might tame the evil spirit of Saul, by th sound of his harp, and the words of sacred song, it may not be amiss. . .to try the potency of music here. (177)

David は、ダビデにならって、Huron 族を鎮めようとするのだ。そして、彼は、大声で賛美歌を歌うのである。Huron 族のインディアンは、David の賛美歌を "death song" (177) とみなし彼に危害を加えないのである。ところが、David はそのことを賛美歌の効力がきき始めたと誤解するのである。そして、彼は、Alice を連れ去る Magua を追いかける Cora に "Stay—lady—stay...The holy charm is beginning to be felt, and soon shalt thou see this horrid tumult stilled." (178) と呼びかける。彼は、Magua が Alice と Cora を連れ去るきっかけを与えたのが自分の歌う賛美歌であることに気付かない。その結果、彼は、ダビテのように自分にも悪霊をしずめる力があるとますます思いこむのである。

自分の霊的力を過信する David の姿は、彼と Natty Bumppo の対話を通してさらに示されている。David は、Huron 族に捕らえられ殺されようとしている Uncas を Huron 族から解放するため Uncas の身代わりになるという。彼のこの提案を聞いた Natty Bumppo は、David が Huron 族に殺されるようなことになれば必ず復讐すると誓うので

ある。David は、Natty Bumppo の誓いをきくと彼に次の様にいう。

> Hold. . .I am an unworthy and humble follower of one, who taught not the damnable principle of revenge. Should I fall, therefore, seek no victims to my mames, but rather forgive my destroyers; and if you remember them at all, let it be in prayer for the enlightening of their minds, and for their eternal welfare! (274)

David は、復讐するな、迫害するものを許せと Natty Bumppo にいう。彼のこの忠告は、イエス・キリストを思い起こさせる。イエス・キリストは、敵をも愛せよと教えた。David は、イエス・キリストのおしえを忠実に実践しようとするのである。その上、彼は、自分の死に特別の意味を見ている。彼は、自分の死を Huron 族から Uncas を解放するための死と考えるだけでない。彼は、自分の死を迫害する Huron 族の蒙を啓き永遠の幸福を彼等にもたらすための死とみなしている。彼は、自分の死を十字架につけられ殺されたイエス・キリストの贖罪死と重ね合わせて見ているのである。自分の霊的力を過信する David は、ダビデにならうだけでなくイエス・キリストのように振る舞っているのである。

Cooper は，イエス・キリストのように振る舞う David を Magua と結びつけて描いている。キリスト教の布教に励む David は、Huron 族から小屋を与えられている。彼にあてがわれた小屋は、Magua の住んでいる小屋でもあるのだ。Cooper は、Magua が住んでいる小屋の様子を次のように描いている。

> Then he sought his own lodge. The wife the Huron chief had abandoned, when he was chased from among his people, was dead. Children he had none; and he now occupied a hut, without companion of any sort. It was, in fact, the dilapidated and solitary structure in which David had been discovered, and whom he had tolerated in his presence, on those few occasions when they met, with the contemptuous indifference of a haughty superiority. (283)

Magua が住んでいる小屋は、妻や子供もなく人間的な温もりがないだけでなく凄まじく荒廃しているのである。それは、彼の心の状態を象徴的に示しているのである。彼は、計り知れないほどの倫理的腐敗と破壊のエネルギーを内蔵した冷酷極まりない悪の化身なのである。David は、この様な Magua と小屋を共有しているのである。そのことは、David も悪の化身 Magua と同様に倫理的腐敗と破壊のネルギーを秘めた男であることを物語っている。Cooper は、悪に蝕まれているという自覚を持たずイエス・キリストのように振る舞う David こそが悪魔的な人物であるというのだ。Donald Davie や Thomas Philbrick は、芸術家である David を高く評価していた。しかし、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁する闇の中で David を捉え直してみると、彼は、混沌とした世界の混迷を一層増幅する悪魔的役割を果たす人物と言えるのである。一見すると熱心なキリスト教の伝道者 David Gamut は、実は偽キリストなのである。

David が偽キリストになってしまった原因をさらに究明するには、少し角度を変えて David の Uncas に対する姿勢に注目する必

要がある。Uncas は、メシヤなのである。[8] Uncas のメシヤ性は、物語の前半部で宗教的な意味を与えられた自然との係わりで描かれている。彼の完璧な肉体・音楽的な声・鹿のような躍動的な行動力は、宗教的な意味を与えられた自然の完全さ・美しさ・漲る生命力を体現しているのである。こうして、David の Uncas に対する姿勢は、宗教的な意味を与えられた自然に対する David の姿勢を示すことになるのである。

David は、第6章冒頭で Uncas を初めて見るのである。彼の Uncas に対する態度は、Duncan Heyward や Munro 姉妹の態度と対照的に描かれている。Duncan や Munro 姉妹は、Uncas の完璧な姿を賞賛する。しかし、彼等と対照的に、David は Uncas に何の関心も示さない。Cooper は、David を次のように描いている。

> The stranger alone disregarded the passing incidents. He seated himself on a projection of the rocks whence he gave no other signs of consciousness, than by the struggles of his spirits, as manifested in frequent and heavy sighs. (52)

David は、殺された馬を悲しんで溜め息をついているのである。彼は、完璧な Uncas に何の感動も覚えないのだ。彼は、Uncas をメシヤと理解しないのである。そのことは、彼が Uncas を通して自然に宗教的な意味を見ようとしないことを示している。

David の Uncas に対する姿勢は、彼と Natty Bumppo の対話を通してさらに示されている。Natty Bumppo は、Huron 族に捕らえられた Uncas の安否を David に尋ねる。彼は、Uncas のことについて次の様にいう。

> The young man is in bondage, and much I fear his death is decreed. I greatly mourn, that one so well disposed should die in his ignorance, and I have sought a goodly hymn— (269)

David は、Uncas の人の良さを認めている。しかし、彼は、あくまでも Uncas をキリストの福音を知らないインディアンと見做しているのである。彼は、Uncas をメシヤと理解できないのである。この様な David は、Uncas の善良さが宗教的な意味を与えられた自然の善意を映し出していることに気が付かないのである。

Uncas をメシヤと理解できない David は、自分の肉体的特徴に与えられている意味を理解しないのである。David は、Uncas と対照的に釣り合いが取れず不格好な男として描かれている。Cooper は、David を次のように描いている。

> The person of this individual was to the last degree ungainly, without being in any particular manner deformed. He had all the bones and joints of other men, without any of their proportions. Erect, his stature surpassed that of his fellows; though, seated, he appeared reduced within the ordinary limits of the race. The same contrariety in his members, seemed to exist throughout the whole man. (16)

David の身体は、調和が取れていないのである。彼の肉体的な特徴は、象徴的な意味が与えられているのである。釣り合いの取れない David の身体は、彼の倫理的な不完全さを表しているのである。しかし、Uncas の完璧な姿に象徴性を理解しない David は、生まれ

ながらに不完全な人間であることに気付かないのである。そして、その結果、彼は、自分の力を過信しメシヤのごとく振る舞ってしまうのである。

David の Uncas に対する姿勢は、物語の後半部でさらに描かれている。Uncas のメシヤ性は、物語の後半部で超自然的な枠組の中で描かれている。その枠組の核心部に Uncas の死が描かれている。Uncas の死に至る過程は、聖書のイエス・キリストの死に至る過程と重ね合わせて描かれている。Uncas の死は、イエス・キリストの十字架の死を連想させるのである。Uncas の死は、悪の呪縛から人間を解放し魂の負っている傷を癒し人間性を回復させる象徴的な意味が与えられているのである。こうして、David の Uncas に対する姿勢は、超自然的世界に対する David の姿勢を通して描かれているのである。

David の超自然的世界に対する姿勢は、物語の後半部で最初に見られる David の様子を通して示されている。読者が物語の後半部で最初にみる David の姿は、インディアンの格好をさせられた David の姿なのである。彼の様子を Cooper は、次のように描いている。

> His head was shaved, as usual, with the exception of the crown, from whose tuft three or four faded feathers, from a hawk's wing, were loosely dangling. A ragged calico mantle half encircled his body, while his nether garment was composed of an ordinary shirt, the sleeves of which were made to perform the office that is usually executed by a much more commodious arrangement. His legs were bare, and sadly cut and torn by briars. The feet were, however, covered with a pair of good deer-skin moccasins. (219)

David は、Huron 族と同じ格好をさせられているのである。彼は、キリスト教を受け入れない Magua を悪霊に取りつかれていると見ていた。そのことを考えてみると、インディアンの格好をさせられている David は、悪霊に取りつかれていることになる。彼は、超自然的世界に対する信仰を失っているのである。この様な David は、超自然的な枠組の中で示される Uncas のメシヤ性を理解できないのである。

David の超自然に対する姿勢は、David について話す Natty Bumppo の言葉に示されている。超自然的世界の核心部に迫ろうとするには、先にそこに入っていった人の残した印や足跡を丹念に拾いその意味をじっくり考える必要があるのだ。実際、Natty Bumppo は、Alice や Cora の残した足跡をたどって核心部に近付くにつれて、Alice や Cora の足跡が消え David の足跡が見立つのに気づく。Natty Bumppo は、この事実の持つ意味をじっくり考えそして次のようにいう。

> I can now read the whole of it, as plainly as if I had seen the arts of le Subtil. . .the singer, being a man whose gifts lay chiefly in his throat and feet, was made to go first, and the others have trod in his steps, imitating their formations. (216)

Natty Bumppo は、David が Alice や Cora の足跡を分からなくする役割をしているという。David は、超自然的世界の核心部に近付こうとする者を惑わす働きをしているのである。しかも、David の背後には、悪の化身 Magua がいて彼を操っているのである。

Magua に操られている David は、超自然の枠組の中に示される Uncas のメシヤ性を理解することができないのである。

Uncas のメシヤ性を理解しない David は、自分の霊的力を弁えないのである。David は、Huron 族の父親から悪霊に取りつかれ病気になっている娘を癒してくれと頼まれるのである。彼は、娘を癒そうとして賛美歌を歌うのである。Cooper は、David を次のように描いている。

> Gamut, who had stood prepared to pour forth his spirit in song when the visiters entered, after delaying a moment, drew a strain from his pipe, and commenced a hymn, that might have worked a miracle, had faith in its efficacy been of much avail. (253)

David は病人を癒そうとするけれど、病人は死んでしまうのである。彼は、悪霊を追い払い人間性を回復させる霊的力を持たないのである。しかし、Uncas のメシヤ性を理解しない David は、自分が欠けるところのある人間であることを理解しないのである。そして、その結果、彼は、自分の霊的力を過信してしまうのである。

David は、Uncas のメシヤ性を全く理解しない。それでは、彼はどのようなキリスト教信仰の持ち主なのであろうか。彼が偽キリストになった原因を考えるためにも、彼を支えるキリスト教信仰がどのようなものなのか考えてみる必要がある。David と Natty Bumppo の対話に注目してみる。Natty Bumppo と Uncas たちは、Huron 族を急襲し彼等に捕らえられている Duncan, Alice, Cora そして David を解放する。けれども、Natty Bumppo たちは、Magua を取り逃してしまうのである。そして、Natty Bumppo は、残念に思いながら、"But 'twas all fore-ordered, and for the best." (116) という。David は、Natty Bumppo の言葉を聞くと彼に向かって次のようにいう。

> thou sayest well. . .and has caught the true spirit of christianity. He that is to be saved will be saved, and he that is predestined to be damned will be damned! This is the doctrine of truth, and most consoling and refreshing it is to the true believer. (116)

David は、予定説こそがキリスト教の真理であるという。彼を支える信仰は、教義を一つの特徴としている。

David の信仰のもう一つの特徴は、賛美歌である。彼は、旅の仲間に加えられると詩篇133篇を歌って喜びを表現するし、殺された馬を悲しんで詩篇135篇を歌う。さらに、彼は、Huron 族を鎮めるため詩篇 2 篇を歌う。彼は、事あるつど賛美歌を歌うのである。彼を支える信仰は、敬虔な宗教感情に支えられているのである。

David の用いている賛美歌集は、彼の信仰の特徴をさらに示してくれる。彼は、愛用している賛美歌集について次のように語る。

> I never abide in any place, sleeping or waking, without an example of this gifted work. 'Tis the six-and-twentieth edition, promulgated at Boston, Anno Domini, 1744; and is entitled, 'The Psalms, Hymns, and Spiritual Songs of the Old and New Testaments; faithfully translated into English Metre, for the Use, Edification, and Comfort of the Saints in Public and Private, especially in New England.' (26)

Davidの賛美歌集は、長い間ニューイングランド地方で使われた賛美歌集の26版なのである。その出版は、1744年なのだ。それは、Jonathan Edwardsが信仰復興運動を起こしてからわずか数年後であることを思い起こす必要がある。Davidを支える信仰は、第1回目の「大覚醒運動」によって目覚めさせられたものなのである。

Davidの信仰を賛美歌集の出版年代に注目して考えたけれども、さらに重要なことは、作品の出版年代である。*The Last of the Mohicans*は、1826年に出版された。この時期は、第2回目の「大覚醒運動」が盛んに展開されていた時期でもある。信仰が問い直され、信仰の活性化が求められていたのである。Davidは、第2回目の「大覚醒運動」が展開されている最中に第1回目の「大覚醒運動」で目覚めさせられた信仰を持ち込んでいるのある。彼の信仰は、時代遅れなのである。Cooperが偽キリストDavidを描いたのは、教義と敬虔な宗教感情を支えとした信仰が生命力を失い形骸化していることを示したかったからであろう。

注

（1）Donald Davie *The Heyday of Sir Walter Scott* (New York: Routledge and Kegan Paul, Kraus Reprint Co., 1971) 107–108

（2）Thomas Philbrick "*The Last of the Mohicans* and the Sound of Discords" *American Literature*, 43 (1971) 36

（3）James Fenimore Cooper *The Last of the Mohicans; A Narrative of 1775* (Albany : State University of New York Press, 1983) 本論中の作品からの引用は、全てこの版による。なお、（ ）ないの数字は、そのページを示す。

（4）Howard Mumford Jones *History and The Contemporary : Essays in Nineteenth-Century Literature* (Madison: The University of Wisconsin Press, 1964) 72

（5）Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Arts of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 44

（6）Thomas Philbrick "*The Last of the Mohicans* and the Sound of Discord" *American Literature*, 43 (1971) 31

（7）James Franklin Beard "Afterword," *The Last of the Mohicans* (New York: New American Library, 1962) 424

（8）拙論 「時間の中心 Uncas－クーパーの描いたメシヤ像－」大阪女学院短期大学紀要第19号（1988）87–103